

有機栽培茶生産における 害虫対策の実施による収量向上

甲賀農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

土山町では、近年需要が高まっている有機栽培茶の生産者と茶商業者からなるコンソーシアムにおいて、輸出拡大や新たな販路拡大等に向けた取組を進めています。コンソーシアムの参画者の1人であるN氏は、約10aの茶の有機栽培に取り組んでおられますが、有機栽培体系における防除経験がなく、十分な防除対策が実施できていませんでした。そのため、主要害虫による被害が多く、十分な収量が得られていないことが課題となっていたため、本活動では有機栽培体系における害虫対策の実施を支援しました。



写真1 コンソーシアムにおいて
有機栽培茶を評価

【普及活動の内容】

当初、昨年度問題となっていた害虫に対し、有機 JAS 認証基準で使用可能な資材を用いた防除体系を提案しましたが、害虫発生の変動に伴い、防除の要否や防除適期の判断が遅れがちになっていました。

そこで、主要害虫の発生調査を核とした、年次変動にも対応できる防除技術の習得を支援しました。本県の試験研究機関による発生予察情報に基づき、適宜主要害虫の発生調査を行い、フェロモントラップを用いた防除適期の把握や適期防除の実施などを支援しました。



写真2 有機栽培茶園と
フェロモントラップの様子

【普及活動の成果】

その結果、害虫被害は減少し、平成29年度の一番茶収量は10aあたり65kgでしたが、令和元年度は96kgと慣行栽培(平均100kg/10a程度)と同等の収量を得られました。有機栽培で重要となる天敵相の発達を考慮し、発生調査を核とした最小限の農薬使用技術を実践することで、N氏は有機栽培体系における防除技術を習得されました。

当センターは、今後も有機栽培茶の生産に向けた技術習得を支援していきます。

◎対象者の意見

有機栽培で問題となる害虫被害を抑えることができた。園相を観察しながら、状況に合わせた害虫管理が重要であることを改めて認識した (N氏/生産者)。